

国連ユースボランティアの実績をベースに世界の公共分野で活躍するグローバルリーダーを育成

関西学院大学の「スーパーグローバル大学」構想が担っている大きな目標は、同大学のミッション「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成の実現だ。これを象徴するのが「国連・国際機関などへのゲートウェイ創設」で、2004年から続けてきた開発途上国への学生ボランティア派遣の実績がベースになっている。

文/松本 恵司(チーフバイラル) 撮影/山本 仁志(フォトスタジオオカ) デザイン/納富進(スタジオトラミエ) 企画協力/西岡 謙(WAVE) 企画制作/AERAD セクション

関西学院大学「スーパーグローバル大学」構想のポイント

- 1 全学生に課す「ダブルチャレンジ制度」
2 協定校への派遣学生数日本一
3 国連・国際機関等へのゲートウェイを創設
4 国際通用性のある質保証システムを構築
5 ガバナンス改革による総合的マネジメント実現

神余 隆博

副学長・国際連携機構長

1950年香川県生まれ。1972年に大阪大学法学部卒業後、外務省に入省。国際連合日本政府代表部特命全権大使、ドイツ特命全権大使などを歴任後、2012年から現職。



「サモアでITユニットに所属。ウェブサイトの管理などの仕事を通して、途上国でITが強力なツールになることが分かりました。しかし、自分にはスキルも語学力も知識もまだまだ足りない。プログラミングのスキルアップと並行して、将来的には国際経済系の大学院への進学を考えています」(総合

政策学部4年、林達也さん)
「ボスニア・ヘルツェゴビナの国連事務所で、活動の紹介や、イベントの企画や運営を担当。民族紛争があった地域なので、中立性を強く意識するようになりました。その一方で、日本では普通のこと

この国連ユースボランティアは、希望する学生(学部2年以上)を国連ボランティア計画(UNV)が書類審査や電話インタビューなどで選考。途上国に派遣して情報通信、教育・啓発などの分野で活動する制度だ。

10年間で延べ74名の学生を途上国に派遣

今年11月に開催された関西学院大学世界市民グローバルフォーラム「世界市民としての国連ユースボランティア」におけるパネルディスカッションでの発言だ。ただし、これは同時通訳による日本語訳で、実際の討論はすべて英語。この語学力と度胸も、途上国での経験で培われたに違いない。

同大学が国連学生ボランティアとして学生を初めて派遣したのは2004年にさかのぼる。それから毎年、10年間で延べ74名の学生を世界の途上国に送り出してきた。「本学のミッションである『Mastery for Service』(奉仕のための練達を体現する世界市民の育成)を実現する一環

国連ユースボランティア派遣実績(2004年度~2013年度)

Table with 4 columns: 派遣国, 人数, 派遣国, 人数, 派遣国, 人数, 派遣国, 人数. Total 74 names.

合計 74名



荻野良さん。ネパールに派遣。2012年に総合政策学部を卒業後、重工業メーカーIHIに就職
井筒穂奈美さん。サモアに派遣。2013年に法学部を卒業して総合電機メーカー東芝に就職

のドキュメントにも紹介されるまじりになりました」(神余隆博副学長)
13年からは国連事務総長の活動の方針が女性と若者を主要テーマの一つにしたことから「国連ユースボランティア」として制度が新たにスタート。日本では新たに5大学が参加してコンソーシアムを組織。計6大学の派遣学生の事前研修は、基幹大学となる関学の学内に新設された「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターで行われている。これは世界初の取り組みである。

「海外に出たら、めっちゃ面白い」

この国連ユースボランティアは2年間のパイロットプログラムを経て、今後も継続される見通し。現行では参加者を選抜後、授業を行い、事前研修でみっちり安全対策、ICT、プロジェクト・サイクル・マネジメント等を学ぶ。それから約5カ月間にわたって世界の12カ国・地域に派遣されることになる。

レポート作成などが必要だが、「国連ユースボランティア実習」などとして最大で16単位が認められる。だが、海外でのボランティア実体験はそれ以上の価値を学生たちにもたらすようだ。

冒頭で紹介した学生の先輩で、フォーラムのパネリストを務めた荻野良さん(IHI勤務)は「ネパールでNPOやNGOなどの連絡会議を企画・運営するなど、現地で求められる仕事は自ら発案して積極的に活動したおかげで、苦しいことも楽しめる根性がつきました。今の若者は内向きと言われますが、海外に出たらめっちゃ面白いから取りあえず行ってこい」と後輩に説明しています。
「やはり卒業生でパネリストの井筒穂奈美さんは東芝で電力プラントを担当しているが、サモアでのボランティア経験から「安全で高品質な電力プラントを途上国に提供して二人ひとりの生活を少しでも豊かにすることが目標」と語る。

もちろん「最初の1カ月は非常にホームシックを感じた」と林さんが明かしたように、楽なことばかりではない。だが、そんな苦境が学生たちを劇的に成長させ、先輩2人が大手企業に入社していることから分かるように、卒業後の進路にも好影響を与えているのである。

同大学では「スーパーグローバル大学」構想のひとつとして「国連・国際機関等へのゲートウェイ育成的なプログラムで国連職員などを育成」

「国連・国際機関等へのゲートウェイ」育成プログラム



キャリア
大学院 国連・外交コース
実践型「世界市民」育成プログラム
国連ユースボランティア、青年海外協力隊、国際赤十字等で実践
国連ユースボランティア派遣実績
国連ユースボランティア派遣実績
国連ユースボランティア派遣実績